

ゆりかご園だより



2018・8・1

2期(6~9月)のねらい からだづくり活動を通して子ども関係の質を高めよう

0歳児クラスが昼食をとっていた時のことです。保護者から担任に電話がスリ、短い間でしたが私がテーブルにきました。1歳を過ぎたSoくんとRくんは私を見て“あれ?どこで見たことあるな、この人もゆりかごの先生だよな”という感じで、交代しても変わらぬペースで食べ続けていましたが、9ヶ月のSaくんは、“え、ボクの好きな先生はどこに行、たの?”とばかりに激しく泣きだしました。10ヶ月のTちゃんも、私が離乳食をスプーンで口に運ぶと食べますが、表情はかたく、電話から戻った担任保育士を見た瞬間、安心したのか泣きだしました。我慢していたようです。

4月、入園したばかりの頃はみな、大好きなお父さんお母さんと離れるのがつらくて泣いていました。今では安心できる大好きな大人ができ、(たいていの場合は担任保育士)その大人との信頼関係を支えに、モノやヒトに関心が広がり、保育園生活が楽しくなってきました。

子どものことばにならない心の動きを受けとめ応える関わりを大切にしたい。乳児期の保育が、子どもの自尊心や自己肯定感を育てていきます。幼児期では、乳児期に培った力を土台に生活やあそびを通して仲間との関わりを育てていきます。自己主張することや我慢することなども学び、あそびをより楽しくするため、生活をより豊かにするために、自分たちでルールを作りだしたり、もめごとも自分たちの力で解決しようとしています。

先日、1歳児クラスの5~6人が慌てた様子で事務室にいた私をよびにきました。大変なことが起きたというのです。何事かと急いで部屋へ行くと、冷水の入った容器からコップに水を注ぎ、涼しい顔でKくんとMくんが水を飲んでいました。話しをきくと、早く飲みたいKくんがまだ注いでいるMくんの手をつね、たのだそうです。当の二人はこの騒ぎに不思議そうな表情。もめている様子もありません。二人の間に起きたことがもしかしたら大ゲンカに発展するかも?と思、た子どもたちが少々先走、たようでした。結果大人の出番はありませんでしたが大人のかを借りてから解決のしかたを学んでいくためには、友だちに無関心ではられません。先走る子どもたちに、(ほほえまげと東屋もいさを感じました。

乳児も幼児も人との関わりの中でどんな姿を見せてくれるのか、今後が楽しみです。